



コミュニケーション障害を疑似体験していただきました

言語聴覚士と言語聴覚障害の啓発を目的として、「言語聴覚の日」イベントを8月29日(土)に開催いたしました。福岡県でのこのイベントも今年で9回目となります。昨年までは県内4つのブロックでそれぞれ企画、開催しておりましたが、今回は日本言語聴覚士協会から助成金をいただき、開催地区も1カ所にしぼり「言語聴覚フェスタ2015」として大規模なイベントを企画しました。内容としては例年実施していた相談会ではなく、体験やチェックコーナーやスタンプラリーを盛り込み、子どもから大人まで気軽に参加し楽しめるように工夫しました。

体験コーナーの内容

●「子どものことば」コーナー

吹き遊び、簡易構音チェック、リーフレットの配布

●「きこえ」コーナー

聴力検査(ささやき声/インファントオーディオメーター/純音聴検)、補聴器相談、耳鼻科医相談

●「食べること」コーナー

咬む回数測定、咬合力測定、反復唾液嚥下テスト、改訂版水飲みテスト、リーフレット・嚥下食試供品配布

●「もの忘れ」コーナー

脳年齢チェック(ストループ課題、末梢課題)

●「コミュニケーション障害」コーナー

コミュニケーション関連機器の展示(透明文字盤/トーキングエイド)、コミュニケーション障害疑似体験

以上5つの体験コーナーを企画しました。またスタンプラリーを併せて行い、体験コーナーを2カ所回られた方にはくじ引きで粗品を進呈することとし、多くの方に楽しみながら言語聴覚障害を体験いただけるように工夫しました。アクロス福岡という都心の大型複合施設のアトリウムを会場としたこともあり、各コーナー合わせて約330名もの方々に参加いただきました。

成人から高齢者の方では「もの忘れ、食べること」、子ども連れのご家族では「子どものことば、きこえ」の参加が多く見られました。体験の中では日常生活で気になっていることや気軽にできる予防法などについても質問が聞かれており、各コーナー担当の協力員の方には日ごろの臨床経験を生かし、柔軟かつ的確な対応をしてもらいました。参加者の方々からは「楽しく体験に参加できた」「気軽に相談できてよかった」「いろいろな話が聞けて勉強になった」「障

害を持ってコミュニケーションを取る方法があると知り、心強くなった」などの感想をいただきました。

また会場でのアンケートでは言語聴覚士の職業、名称について「知っている」の回答が83%あり、われわれ言語聴覚士に関する認知度が高まっていることがうかがえる結果となりました。当日は地元テレビ局や新聞社からも取材いただき、来場していない一般の方々にも言語聴覚障害や言語聴覚士について知っていただく機会になったかと思えます。一方で言語聴覚障害に関する個別相談の希望も20件以上あり、このイベントがコミュニケーションに不安を持っている方々の貴重な相談の場になっていることを改めて認識し、これからも継続していく意義を強く感じることができました。

盛況のうちに終わることができた今回のイベントですが、これまでに多くの失敗と反省がありました。なかなか来場者が増えない状況で、ポスターやチラシを配布したりグッズやのぼりを作ったり、さまざまな企画を考えたり、毎年少しずつ形を変え多くの方のご協力をいただきながら何とか継続してきました。このイベントのために6年前に作成したオレンジの県士会Tシャツも回を重ねるごとに会員の中に広がり、徐々にではありますが福岡県言語聴覚士会のイメージカラーとなってきている気がいたします。

「言語聴覚士」が広く社会に必要とされる存在になるためには、患者様のニーズから社会のニーズへ、疾病から健康へと視野を広げること、そして訓練室を飛び出し、社会貢献という形でその専門性を発揮することが大切なように思います。より身近で、より頼もしい「言語聴覚士」を目指して、これからも会員の皆様と共に進んでいきたいと思っています。ご協力いただいたスタッフ、企業の方々、ご後援いただいた団体の皆様には厚くお礼申し上げます。



イベント翌日には新聞にも掲載されました



言語聴覚フェスタ2015の運営スタッフ一同